

## 第4回第1分科会（R5.10.5）後に意見等記入票で寄せられた意見

### 1 青森高校への学校視察についての意見

#### ■検討会議委員①

- 医学部などの難関志望をしている学生に対するケアについてばかり質問が集中していた印象だが、その他の志望に対しても、生徒の多様なニーズに沿った個別の指導や相談、補講などは行われているのか、疑問だった。

例えば進学校あるあるだが、専門学校進学や就職を希望する生徒をなおざりにしたり、おざりな対応で大学進学ありきの指導だけするような校風になってしまっていないか。

生徒の個性や希望に沿った適切な進路指導と教育補助は、どこまでできているのか。不登校の生徒や、支援が必要な生徒に対してはどのようなケアがされているのか。

従来の教科制から選択教科制に転換したことで、ユーザーの生徒たちや保護者の影響はどうだったか。

学ぶ上で格段に良くなった点と、逆に改善の余地がある点に関して、これまで調査されたことはあるか。

### 2 第4回第1分科会についての意見

#### ■検討会議委員①

- 全日制普通科単位制と総合選択制の、学びにおける効果の違いが、私には全く伝わらなかった。

自分の進路選択に、この部分が加味されるだけの魅力を全く感じられなかったのは、非常に残念だと思う。これでは一般の生徒や保護者に伝えることはないなと思った。

高校について熟知されている高校の先生や専門家ばかりでの会議では、新たな魅力を模索することや、今ある魅力を効果的に伝えるということは難しく、これが限界なのかなと正直に思った。

傍聴している私にも魅力が伝わる説明をすることが、まずは必要最低限の説明水準なのではないかと思う。

スポーツ科学科のような特色ある科については、私にも分かりやすく伝わったので、特色が伝わりにくいものに対しては、もっと丁寧に工夫を凝らして説明する必要があると感じた。

- 全国からの生徒募集についての話があるが、そもそも県内からも集められていないのに、どうやって全国に対して魅力をアピールするつもりなのか、全く未知数で実現にほど遠い感が否めない。

ただ募集したから来てもらえるような簡単な話ではないことは、この会議に出ている委員なら、皆が思っていることだろう。

選択してもらうためには、ユーザーにとってメリットを感じられるようであればならない。

そのためには対象をどこに絞るのか、選択してもらうために何をするのか、何ができるのか。

全国からはもちろんだが、まずは県内からも選択してもらえそうな高校づくりを目指して、これからの会議で話し合われることを期待している。

### 3 その他

#### ■検討会議委員①

○ これまで傍聴させていただいて思ったのは、ユーザーが不在のまま会議が行われている矛盾だった。

どこの企業でも、商品開発の場ではユーザーの意見や反応が反映されて行われている。

高校における商品とは、まさに教育なのであるから、その教育に対して改善の余地はないか、さらに満足のいく水準の教育を提供するためには何ができるのか等、ユーザーの声を教育に反映するべきであるのに、今までそのようなヒアリングはされていないのか、これまでの会議での説明では、その点について話されることがなかったことが、親として非常に残念だと思った。

分かっている人たちが集まって、分かっていることに対してさらに認識を深めるといふ作業に、何の意味があるのか。

これでは、いくら検討会議を進めても、教育を提供する側の一方的な思い込みや価値観の押し付けになってしまい、今ある高校のさらなる魅力の発掘や、至らない点について改善策の模索、魅力の効果的な伝え方、新しい教育の在り方を発見することは難しいように思える。

この先、これまでの説明を踏まえて、どのような革新的なアイデアが出てくるのか、それを引き出すためにどのように会議が運営されていくのか、これからの第1分科会の進行に期待している。